

分担研究報告書

歯科衛生士教育の中の基礎分野・選択必修分野

分担研究者 矢尾和彦 大阪歯科大学歯科衛生士専門学校 校長
松井恭平 千葉県立衛生短期大学 教授

研究要旨：歯科衛生士教育の中で、教育目標を明確にすることで基礎分野・選択必修分野の教育内容を変化させることが望ましい。また、高等学校の理科の履修状況を考慮して、その取り扱いをどのように捉えるべきかを検討した。

A 研究目的：

すでに中間報告で基礎分野・選択必修分野の教育内容（例）を示した。

この分野の教育内容を充実させるためには、今後、医療関係職種教育の根幹になると思われるクライアントを中心軸に据えた考え方を基礎として検討することが必要となる。

ここでは、歯科衛生士が今後どのような業務に関わることになるか、関わる業務内容の助けとなるような分野にはどのような教育内容が考えられるかをピックアップしてみた。また、高等学校の新学習指導要領から、歯科衛生士教育における理科の分野の教育についても検討を加えた。

B 研究結果および考察

(1) 基礎分野の教育内容

基礎分野では、科学的思考の基盤・人間と社会生活の理解として、10単位を修得するとしており、この配分については、各養成施設の設定に任されている。

すでに中間報告でも記載のように、歯科衛生士養成施設入学前に取得した単位の認定と、放送大学などの通信教育を併用した単位の取得を認めることで、施設側には教育内容を拡大できる利点が、学生側には自

分の得意な分野の深い理解を進めることや、不得意分野の解消にもつながる利点があると報告した。しかし、平成15年度から高等学校の新学習指導要領¹⁾が実施段階に入るので、その教育内容を検討した。新学習指導要領・理科では、ほぼ30%の内容が精選削減されており、また、理科の科目編成が選択必修科目として物理・化学分野を中心とした理科総合Aと生物・地学分野を中心とした理科総合B、科学史を中心とした理科基礎および選択科目として物理I・II、化学I・II、生物I・II、地学I・IIに改められている。各科目とも3単位が与えられ、高等学校の卒業要件としては、理科については選択必修科目を含めて4単位以上習得すればよいとされている。したがって、平成18年度以降に入学してくる学生の高等学校での理科の履修状況はかなり多様化すると思われ、場合によっては化学I、生物Iのどちらか一方、またはどちらも履修していない学生が入学してくることも考えられる。理科の化学IIと生物IIを履修した学生が入学してくれば問題はないが、化学II・生物IIで主に学習する有機化学、代謝・分子生物学などの素養がない学生には、専門基礎分野での理解と、それに続く

専門分野の理解のためにも、化学・生物学の開講も検討が必要になることも考えられる。

(2) 選択必修分野の教育内容

選択必修分野の教育内容は、各養成施設の独自性・地域特殊性に合わせて選択編成することができるようになったとしているが、教育目標によって、専門基礎分野・専門分野でカバーしきれない教育内容を展開することが望ましい。別稿（歯科衛生士が独自で担当する口腔保健学）の考え方を推進する上では、すでに中間報告で教育内容（例）として掲げたもののうち、基礎分野の高齢者・障害者福祉、手話や、専門基礎分野の介護技術、摂食機能訓練法、口腔筋機能訓練法、母子・成人・高齢者などライフステージ別歯科保健論は、口腔保健学の中で教授可能であると思われる。もちろん、口腔保健学に充当すべき単位数を大幅に超えることになれば、選択必修分野の7単位で吸収することになる。

歯科衛生士業務を行う際に他職種からの情報収集と情報発信など、課題となる問題解決のための論理的な思考や文章表現能力の向上は必要であろう。文献検索法ないしは歯科医療情報論、歯科修辞学を含めた口腔保健研究法などの開講も検討の必要があろう。この文献検索法や歯科医療情報論はEBD（エビデンスベースドデンティストリー）の上からも、IT関連の知識の活用からも、その比重は大きいと思われる。さらに目的・方法・結果・考察・結論と続く論理的な思考方法の獲得は、プレゼンテーション技法と合わせて考慮しても良い教育内容と思われる。

また、進歩の著しいインプラントについ

ての歯科衛生士としての理解や、スポーツ歯学分野で、歯科衛生士として教育を行うための理解なども、今後歯科衛生士にとって重要な地位を占めるとと思われる。

別の見地から、歯科衛生士資格と3級・2級ホームヘルパーや介護福祉士の資格の獲得を併せて目指す際には、この選択必修分野の利用が有効であろう（それぞれのカリキュラムを別表に示す）。しかし、歯科衛生士の業務は、ホームヘルパーなどの業務内容の生活介助を除いたほとんどの部分は、口腔保健学（障害者歯科学関連の演習・実習も含む）によってカバーされている範囲である。この点から見ると、歯科衛生士教育を行った結果として、3級・2級ホームヘルパーの資格が得られることが最善であろうが、資格獲得のために貴重な教育内容を割くことは本末転倒と言わざるを得ない。

C 結論

高等学校での理科の履修状況を踏まえ、基礎分野の教育内容を検討することが望ましいと考えられる。

また、歯科衛生士の活躍する「場」によって、歯科診療所に勤務する歯科衛生士、地域の保健行政に勤務する歯科衛生士など、教育内容の選択と配分を調整できるようにすることが望ましい。

これらの方策によって、各養成施設は、どのような歯科衛生士を養成するかという教育目標を明確に打ち出すことができるようになるものと思われる。

D 学会発表なし

E 参考文献

1) 高等学校新指導要領

ホームヘルパー2級のカリキュラム

福祉サービスの基本視点	6
社会福祉の制度とサービス	6
ホームヘルプサービスに関する知識	5
サービス利用者の理解	14
介護に関する知識と方法	11
家事援助に関する知識と方法	4
相談援助とケア計画の方法	4
関連領域の基礎知識	8
実技講習	42
実習	30
計(時間)	130

ホームヘルパー3級のカリキュラム

社会福祉に関する知識	7
ホームヘルプサービスに関する知識	13
関連領域の基礎知識	8
実技講習	17
実習	8
計(時間)	25

ホームヘルパーになろう

オーエス出版、東京都

2000.5.15

介護福祉士2年課程のカリキュラム

基礎科目	4科目	講義	120	
専門科目	社会福祉概論	講義	60	
	老人福祉論	講義	60	
	障害者福祉論	講義	30	
	リハビリテーション論	講義	30	
	社会福祉援助論	講義	30	
	社会福祉援助技術演習	演習	30	
	レクリエーション活動援助法	演習	60	
	老人・障害者の心理	講義	60	
	家政学概論	講義	60	
	家政学実習	実習	90	
	医学一般	講義	90	
	精神保健	講義	30	
	介護概論	講義	60	
	介護技術	演習	150	
	形態別介護技術	演習	150	
	介護実習	実習	450	
	実習指導	演習	90	
	計			1650

PP100から引用
 介護福祉士になるには
 大橋謙策・渡辺裕美編著
 (株)ペリかん社、東京都
 2000.2. 25

今後の歯科衛生士に対する養成方策に関する総合的研究

－カリキュラムの特色について－

分担研究者 大阪歯科大学歯科衛生士専門学校 校長 矢尾和彦

研究要旨：各養成所が大綱化された教育内容に従って編成することになっている新たなカリキュラムは、指定規則に制約された現行カリキュラムに比較して編成上の自由度が高くなると考えられる。そこで平成8年に調査した現状のカリキュラムと平成9年の調査で示された3年制カリキュラム案および平成11年に「歯科衛生士の資質向上に関する検討会」作業委員会が提示した3年制カリキュラム案について教育内容の時間配分を比較検討した。その結果、各養成所において編成される3年制のカリキュラムは、養成所の教育目標、地域性などの違いによって特色が現れ、その特色は、歯科衛生士業務関連科目に対して基礎分野、専門基礎分野および歯科臨床科目が占める割合によって明確に示されるものと考えられる。

A. 研究目的

平成11年に「歯科衛生士の資質向上に関する検討会」意見書の中で提示された新たなカリキュラムは、全体が4分野に区分され、3年間で93単位（最小限2570時間）以上の習得を求めるものである。その中で大綱化された教育内容に従って、何をどのように教えるのかは各養成所が設定することとなっており、指定規則に制約された現行カリキュラムに比較してカリキュラム編成の自由度が高くなると考えられる。

また、指定規則が改正されて歯科衛生士の修業年限が3年間以上になると、教授要綱がなくなり、カリキュラムは、養成所の教育目標と歯科衛生士試験出題基準を指標として編成されることになる。そのため各養成所で編成されることになる3年制カリキュラムに、どの程度の独自性を盛り込んだ教育が行えるようになるのかを推測しておく必要がある。

そこでカリキュラムに現れる特色を検討

するために、検討会が提示したカリキュラム案を指標として、①平成8年に調査した現状の2年制カリキュラム、②平成9年に行った3年制教育の在り方についてのアンケート調査で提示されたカリキュラム案について教育内容の時間配分を検討した。

B. 研究方法

1. 指標とするカリキュラム：検討会が提示したカリキュラム（提示案）は、歯科衛生士業務に関連する領域の拡充を重点目標とし、卒業要件として93単位以上の修得を必要としており、各養成所が3年制のカリキュラムを編成する場合の指標となるものである。このカリキュラムでは、講義は15時間を1単位として、実験・実習は30～45時間までの範囲で1単位として換算しているために総授業時間数が2570時間となっている。しかし現状の歯科衛生士養成には、既に2280時間が充てられているので、2570時間でゆとりのある3年制教育を行う

のが困難なことは明らかであり、これは最低限の時間を示したものである。ついで、総授業時間数の上限を設定するために講義を30時間で1単位とした。こうすると総授業時間数は3360時間となり、年間当たりの授業時間数が1120時間になって現状の過密スケジュールと変わらなくなるので、これを上限とした。また、要求される93単位は、3年制短期大学の卒業要件となっているものであり、大学の卒業要件が124単位以上であることを考慮すると、総単位数では93～110単位の間で設定されるのが妥当であると考えられる。そこで、総授業時間数が2570～3360時間で単位数が93～110単位の範囲を3年制カリキュラムの指標（提示案）とした（表1）。

2. 表2は、現状の2年制教育において行われている平均的カリキュラムであり、表3は、平成9年の調査で提示された3年制カリキュラムである。いずれのカリキュラムも教育内容は、現行の指定規則に従って基礎科目と専門科目に分類されている。そこで、指標とするカリキュラムと比較できるように、示された科目を基礎・専門基礎・専門・選択必修の4分野に分類し、さらに専門分野を歯科衛生士概論、歯科臨床科目、歯科衛生士業務関連科目および実習（臨床・臨地実習）に分類した。また、現行のカリキュラムには選択必修分野がないので、基礎科目の中で生物学・社会学等のように学問体系が整っているものは基礎分野に残し、手話・国語表現・一般教養等は選択必修分野に入れた。その上で提示案と比較した。

C. 研究結果

1. 「現状の2年制カリキュラム（表2）」における各分野の時間を提示案と比較してみると、基礎分野・180時間、専門基礎分野・494時間、および専門分野の歯科衛生士概論・15時間、歯科臨床科目・221時間

は、提示したカリキュラムの上限と下限の中に収まっていることが判る。一方、歯科衛生士業務関連科目・569時間、臨床・臨地実習・723時間および選択必修分野・62時間は、提示案に示す時間数よりも歯科衛生士業務関連科目で約400時間、臨床・臨地実習で200時間、選択必修分野（上下限の中間として150時間を設定）に該当する部分で90時間が不足していることになる。これらの不足している時間数を現状の総授業時間・2279時間に加算すると2969時間となる。つまり授業時間数とその配分からみると、現状のカリキュラムの中で歯科衛生士業務関連科目と臨床・臨地実習を拡充することによって3年間の修業年限を必要とするカリキュラムが時間的には充足してしまうことになる。

2. 平成9年のアンケート調査において提示された3年制カリキュラム（表3）を提示案のカリキュラムと比較すると、基礎分野・210時間と専門基礎分野・600時間は、提示案の上下限内に収まっている。一方、歯科臨床科目・525時間は、提示案の上限を240時間も超えているのに対して、歯科衛生士業務関連科目・640時間は、提示案の下限より約300時間少なく設定されている。そして臨床・臨地実習・885時間は指標よりも15時間少なく、逆に選択必修分野・220時間では上限よりも10時間多くなっているが、ほぼ提示案と同様であるといえる。このカリキュラムの総授業時間数は3095時間で、総単位数が98単位であり、全体としては3年制カリキュラムの体裁を整えているが、歯科衛生士業務関連科目の拡充と歯科臨床科目の調整が必要と考えられる。

D. 考察

現状の2年制カリキュラム：2年制のカリキュラムを3年制カリキュラムと比較す

ること自体が、無意味なようであるが、分野別に分類して提示案カリキュラムと比較してみると、実際に不足しているのは歯科衛生士業務関連科目の部分であると云える。この部分が拡充されると、必然的に臨床・臨地実習時間が増え、それに従って歯科臨床科目はもとより、基礎分野や専門基礎分野においても教える事柄が増えてくる。そして、増加した教育内容を受け入れる余裕があるのは、選択必修分野の100時間程度しかない。従って3年制カリキュラムの編成に際しては、新たに加わる教科目と従来の教科目との調整が必要になると思われる。また、このような比較によって、現状のカリキュラムの過密度が重篤であることが分かった。

養成所が望む3年制カリキュラム：このカリキュラムは、検討会意見書が提出される3年前の平成9年に46校から得た回答を元にして作成したものである。当時は、日本歯科衛生士会から歯科衛生士業務の在り方検討会報告書が提出され、歯科衛生士業務の多様化に対応できるように歯科衛生士教育の改善が強く求められ始めた時期であった。そのために歯科衛生士業務関連科目および臨床実習の時間数は、指定規則を大きく越えて延長されて、歯科衛生士の専門領域を拡充しようとする試みがみられた。しかしながら一方では、専門基礎科目と歯科臨床科目に合わせて1000時間を越える時間が割かれており、どちらかというところ専門基礎分野と歯科臨床科目に重点を置いているのが特徴である。

近年、多くの養成所では、高卒者の他に短大・大卒者、社会人など、年齢や学歴の様々な者が入学してくるようになり、生徒間の知識水準や学習態度に格差が生じてきた。それゆえ、歯科衛生士専門領域の教育のレベルを向上させようとする、それに先だつ専門基礎、歯科臨床科目を十分に理

解させておく必要のために、この部分に比重をかけざるを得なくなるというジレンマに陥ることになる。そういう意味で、このカリキュラムは、多くの養成所がもっている悩みが凝集されているようなカリキュラムであるとも云える。

E. 結論

各養成所が大綱化された教育内容に従い、歯科衛生士の専門分野を重点的に拡充することによって編成することになる3年制のカリキュラムには、養成所の教育目標、地域性などの違いによって特色が現れてくると考えられる。また、その特色は、歯科衛生士業務関連科目に対して基礎分野、専門基礎分野および歯科臨床科目が占める割合によって明確に示されるものと考えられる。

F. 学会発表なし

表1 作業委員会が提示した3年制カリキュラム案の時間配分

区分	基礎	専門基礎	専 門				選択必修	合 計
			DH概論	歯科臨床	DH業務関連	実 習		
時間数	150-300	330-660	30-60	120-240	935-990	900	105-210	2570-3360
単位数	10	22	2	8	24	20	7	93
配分率	5.8-9.0	12.8-19.8	1.2-1.8	4.7-7.1	36.4-29.5	35.0-28.0	4.1-6.3	100.0

注: 下限は講義時間を1単位15時間とし、上限は1単位30時間として換算した

表2 現在行われている2年制教育の平均的カリキュラム

区分	基礎	専門基礎	専 門				選択必修	合 計
			DH概論	歯科臨床	DH業務関連	実 習		
時間数	180	494	15	231	569	723	62	2274
単位数	6	24	1	7	13	18	2	71
配分率	7.9	21.7	0.7	10.1	25.0	31.7	2.7	100

平成7年調査

表3 3年制教育を希望する養成所の提示したカリキュラム

区分	基礎	専門基礎	専 門				選択必修	合 計
			DH概論	歯科臨床	DH業務関連	実 習		
第1学年	150	370	15	145	290	25	110	1105
第2学年	60	150	0	240	230	360	40	1080
第3学年	0	80	0	140	120	500	70	910
合 計	210	600	15	525	640	885	220	3095
単位数	7	30	1	17	16	19	8	98
配分率	6.8	19.4	0.5	17.0	20.7	28.6	7.1	100.0

平成9年調査

資 料

資料 1	全国の歯科衛生士養成所に対するアンケート調査 - - - -	1
資料 2	すでに臨地実習を実施している養成所に対する調査 - - -	5
資料 3	資料 1 の調査集計結果 - - - -	8

資料1 全国の歯科衛生士養成所に対するアンケート調査

タイトル：臨地実習（地域歯科保健に関連する実習）についてのアンケート調査

臨地実習とは、地域における歯科保健サービスが展開されつつある実情を踏まえて、歯科医療機関以外に、幼稚園、保育園および小中学校や保健所、市町村保健センターさらには社会福祉施設ならびに在宅の歯科診療などが行われている現場を対象とした地域保健実習を総称する呼称である。

短期大学・専門学校名

校長・学院長名

記入者名と役職

住所

TEL、FAX、E-mail

1. 学生数についてお答えください。

定員 1年生 2年生

2. 専任教職員数についてお答えください。

1) 歯科医師 名

2) 歯科衛生士 名

3) 事務職員等 名

3. 貴校では現行のカリキュラムの中で、臨地実習を行っていますか。

1) はい (質問4へ)

2) いいえ (質問7へ)

4. 臨地実習を行っている施設名、学生1人当たりの時間数、実施時期、実習内容についてお答えください。

施設名	時間数	時期	内容 (見学、保健指導、診療補助、予防処置、 歯石除去、生活介助など)
保健所			
市町村保健センター			
障害者・高齢者診療センター			
幼稚園(保育園)			
小学校			
中学校			
高等学校			
養護学校			
企業・事業所			
障害者施設			
高齢者施設			
在宅訪問歯科診療			
在宅訪問歯科保健指導			
その他(具体的に)			

5. 巡回臨床実習（厚生省から都道府県を通して予算が出る制度で、社会福祉施設における実習などが対象となる）を行っていますか。

- 1) はい
- 2) いいえ

6. 臨地実習の内容に満足していますか。

- 1) 十分満足
- 2) まあ満足
- 3) どちらともいえない
- 4) やや不満
- 5) 全く不満

7. 臨地実習施設の確保とその困難性について、それぞれの項目のあてはまるものに○印をつけてください。

施設名	困難	どちらともいえない	容易
保健所	困難	どちらともいえない	容易
市町村保健センター	困難	どちらともいえない	容易
障害者・高齢者診療センター	困難	どちらともいえない	容易
幼稚園（保育園）	困難	どちらともいえない	容易
小学校	困難	どちらともいえない	容易
中学校	困難	どちらともいえない	容易
高等学校	困難	どちらともいえない	容易
養護学校	困難	どちらともいえない	容易
企業・事業所	困難	どちらともいえない	容易

障害者施設	困難	どちらともいえない	容易
高齢者施設	困難	どちらともいえない	容易
在宅訪問歯科診療	困難	どちらともいえない	容易
在宅訪問歯科保健指導	困難	どちらともいえない	容易

ご協力ありがとうございました。

資料2 すでに臨地実習を実施している養成所に対する調査

1. 学生数について

定員 1年生 2年生

2. 専任教職員数について

歯科医師 歯科衛生士 事務職員等

3. 臨床実習と臨地実習の時間的な比率

4. 臨地実習の施設、1人当たりの時間数、時期、内容について

施設名	時間数	時期	内容
保健所			
市町村保健センター			
障害者・高齢者診療センター			
幼稚園(保育園)			
小学校			
中学校			
高等学校			
養護学校			
企業・事業所			
障害者施設			
高齢者施設			
在宅訪問歯科診療			
在宅訪問歯科保健指導			
その他(具体的に)			

*臨地実習の内容についての質問項目

- 1) 見学、保健指導、診療補助、予防処置、歯石除去、生活介助
- 2) 実習1回あたりの学生数
- 3) 担当教員の数と同行の有無

- 4) 実習先の指導者・担当者の有無（歯科医師、歯科衛生士、その他）
- 5) 実習先の指導者・担当者の資格
- 6) 実習の評価方法
- 7) 実習の事前講義・ガイダンスの有無（学校側または施設側）
- 8) 実習終了後のカンファレンスの有無
- 9) 実習先への謝金等
- 10) 歯科医師会および行政との関わり

5. 臨地実習の内容に関する満足度について

十分満足 まあ満足 どちらともいえない やや不満 全く不満

6. 臨地実習施設の確保とその困難性について

施設名	困難	容易（開拓の手段）
保健所		
市町村保健センター		
障害者・高齢者診療センター		
幼稚園(保育園)		
小学校		
中学校		
高等学校		
養護学校		
企業・事業所		
障害者施設		
高齢者施設		
在宅訪問歯科診療		
在宅訪問歯科保健指導		

7. 3年制カリキュラムにおいて臨地実習の場として望ましい施設等

保健所

市町村保健センター

障害者・高齢者診療センター

幼稚園(保育園)

小学校

中学校

高等学校

養護学校

企業・事業所

障害者施設

高齢者施設

在宅訪問歯科診療

在宅訪問歯科保健指導

その他(具体的に)

8. 3年制カリキュラムにおける臨地実習の時期・期間・学生1人当たりの時間数

9. 3年制カリキュラムの臨床実習と臨地実習の時間的比率

学校数 112

3. 随地実習の実施		
	学校数	%
行っている	111	99%
行っていない	1	1%

5. 巡回臨床実習		
	学校数	%
行っている	37	33%
行っていない	69	62%
無回答	6	5%

6. 随地実習の内容		
	学校数	%
十分満足	2	2%
まあ満足	43	38%
どちらと	27	24%
やや不満	31	28%
全く不満	4	4%
無回答	5	4%

4. 随地実習	保健所		保健センター		診療センター		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		養護学校		企業・事業所		障害者施設		高齢者施設		在宅診療		在宅指導		その他	
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
やってない	75	67%	49	44%	70	63%	24	21%	44	39%	99	88%	104	93%	77	69%	100	89%	46	41%	34	30%	101	90%	106	95%	87	78%
やっている	37	33%	63	56%	42	38%	88	79%	68	61%	13	12%	8	7%	35	31%	12	11%	66	59%	78	70%	11	10%	6	5%	25	22%
平均時間	18.0		14.1		23.1		10.9		13.8		3.8		4.8		10.4		22.3		22.5		20.9		8.6		7.8		16.1	

7. 随地実習 先の確保	保健所		保健センター		診療センター		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		養護学校		企業・事業所		障害者施設		高齢者施設		在宅診療		在宅指導			
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%		
1	37	33%	33	29%	36	32%	5	4%	18	14%	31	28%	34	30%	27	24%	40	36%	25	22%	31	28%	61	54%	60	54%		
2	30	27%	25	22%	29	26%	29	26%	28	25%	44	39%	39	35%	39	35%	39	35%	25	22%	36	32%	23	21%	24	21%		
3	26	23%	35	31%	26	23%	58	52%	50	45%	9	8%	10	9%	21	19%	6	5%	43	38%	27	24%	6	5%	4	4%		
合計	112	100%	112	100%	111	100%	111	99%	111	100%	112	100%	112	100%	112	100%	111	100%	112	100%	112	100%	112	100%	112	100%	112	100%

保健所 保健センター 診療センター 幼稚園 小学校 中学校 高等学校 養護学校 企業・事業所 障害者施設 高齢者施設 在宅診療 在宅指導
 平均時間1 18.0 14.1 23.1 10.9 13.8 3.8 4.8 10.4 22.3 22.5 20.9 8.6 7.8 16.1
 平均時間2 6.0 7.9 8.7 8.6 8.4 0.4 0.3 3.3 2.4 13.2 14.6 0.8 0.4 3.6

学校番号	1. 学生数		2. 専任教員数		4. 臨地実習																			
	1年生		2年生		実習		保健所		診療センター		診療センター		幼稚園		小学校									
	定員	1年生	2年生	歯科	歯科	歯科	歯科	歯科	歯科	歯科	歯科	歯科	歯科	歯科	歯科	歯科								
1	30	30	29	0	5	0	0	1	6	2	年	後	1	0	3	2	年	後	1	0	0	0		
3	80	25	15	1	4	1	10	7	6	後	期	1,2	9	前	後	1,2	0	0	0	0	0	0		
4	50	49	39	3	5	3	1	1	3	前	後	7	0	0	0	0	0	0	4	2	4	2		
5	33	39	33	0	9	0	1	7	12	前	後	7	0	0	0	0	0	0	12	前	7	0		
6	50	47	33	0	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	2	年	前	0		
7	50	50	50	0	5	0	0	1	8	2	年	後	1,2	0	0	0	0	0	4	2	年	前	2	
9	40	49	40	1	4	0	2	1	8	2	年	後	1	0	0	0	0	0	8	1	年	後	0	
10	36	33	36	0	4	1	3	1	6	後	期	2,7	1	0	0	0	0	6	前	期	2	2		
11	50	66	46	0	4	0	3	1	30	2	年	後	1,7	0	0	0	0	6	1	年	後	2		
12	36	40	40	6	4	0	1	1	40	後	期	1,3,7	0	0	0	0	0	4	前	期	2,3	2		
13	50	56	43	0	5	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2		
14	45	48	33	0	4	0	1	1	1	2	年	後	2,7	0	0	0	0	10	2	年	後	1,2	0	
15	20	20	5	0	3	0	6	1	8	2	年	後	1,7	7	12	1	年	後	0	0	7	0		
16	50	45	47	1	4	2	2	1	36	前	後	1,2	0	0	0	0	0	24	前	期	2,4	0		
17	50	57	48	0	6	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	2	年	前	2		
18	80	36	27	1	4	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	前	期	2	2		
19	30	30	27	1	4	1	8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	後	期	2,3	2		
20	50	51	49	0	4	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	2	年	後	1,6	2	
21	50	57	48	0	4	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2		
22	50	64	59	0	3	1	2	1	4	前	期	1,3	0	0	0	0	0	16	前	後	1,3	0		
23	40	46	37	0	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	2	年	前	2		
24	80	80	63	1	4	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
25	80	37	28	0	4	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2		
26	30	30	30	2	3	1	0	1	16	2	年	後	2,4	0	0	0	0	40	2	年	後	16		
27	80	89	76	1	8	0	3	1	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	7	0		
28	40	53	46	7	12	24	12	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	年	前	2	
29	50	48	47	4	5	2	20	1	8	2	年	前	1	1	8	2	年	後	3	3	2	年	前	2
30	40	44	44	1	5	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2		
31	60	65	67	2	6	0	2	1	7	後	期	1	0	0	0	0	0	0	3	前	期	2	2	
32	50	50	54	0	6	0	3	1	21	前	期	1,2,4,7	1	0	0	0	0	18	前	期	4,7	7		
33	30	29	27	0	3	0	0	1	24	2	年	後	1,2,4	0	0	0	0	0	4	2	年	前	2	
34	80	80	80	1	6	1	5	1	12	2	年	後	1	1	3	2	年	後	2	18	2	年	前	2
36	80	100	82	2	7	0	3	1	16	2	年	前	1,2	0	0	0	0	0	0	0	0	24	2	
38	36	44	41	1	4	0	0	1	18	後	期	1	0	0	0	0	0	36	前	後	1,3,6	18	6	

学校番号	1. 学生数		2. 専任教員数		4. 臨地実習		保健センター		診療センター		幼稚園		小学校									
	定員	1年生	2年生	歯科	歯科	歯科	歯科	歯科	歯科	歯科	歯科	歯科	歯科	歯科								
90	100	117	116	3	4	0	19	0	0	0	8	前	2	8	前	2						
91	30	23	31	32	4	0	2	8	前	1	8	前	0	8	前	2						
92	40	40	40	1	6	4	5	40	2	年	40	2	年	2	2	2						
93	100	110	106	0	9	0	3	0	0	0	160	前	56	前	56	前						
94	30	30	30	0	3	0	2	0	0	0	1,2,7	0	12	1,2,7	0	0						
95	35	46	32	0	4	0	1	24	後	1	24	前	4	前	2	18	後	2,4				
97	36	39	36	0	3	0	1	0	0	0	0	0	53	2	年	2	0	0				
98	45	48	43	0	5	0	1	0	0	0	7	2	年	18	2	年	2	30	2	年		
99	50	53	54	0	5	0	1	4	後	1	0	0	1	後	2	2	5	後	2	2		
100	40	59	46	0	4	1	1	0	0	0	0	0	1	1	2	2	2	2	2	2		
101	50	46	36	0	3	0	1	0	0	0	0	0	4	2	年	7	0	0	0	0	2	
102	80	53	72	1	6	1	0	0	0	0	4	2	年	4	2	年	7	0	0	0	2	
103	50	59	58	0	5	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
104	20	20	20	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
105	50	56	45	6	5	1	2	0	0	0	4	後	8	前	4	後	2	0	0	0	2	
106	50	62	63	0	4	0	1	0	0	0	4	前	8	前	1	前	2	0	0	0	2	
107	50	48	43	0	3	1	2	0	0	0	6	2	年	18	2	年	2	6	2	年	2	
109	48	53	41	0	5	0	1	0	0	0	4	2	年	0	0	0	0	0	0	0	2	
110	50	37	23	0	4	1	0	0	0	0	3	前	2	0	0	0	2	前	2	5	前	2
111	40	40	39	0	3	3	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
113	50	55	66	2	4	0	0	12	2	年	7	0	8	2	年	4	前	1,2	2	12	前	1,2
114	50	57	56	1	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
115	50	56	54	0	4	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
117	50	60	55	0	4	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
119	100	99	87	0	5	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
120	40	41	36	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
121	50	57	42	1	4	4	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
122	40	39	32	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
123	50	62	55	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
124	50	53	55	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
125	50	54	55	0	4	0	0	32	前	1,2	2	0	7	2	年	3	6	2	年	7	0	0
126	100	31	26	2	10	10	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
128	50	57	57	0	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
131	50	53	53	0	5	1	1	6	2	年	1	0	0	8	1	年	2	8	前	8	前	2
133	30	20	16	0	3	10	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
134	40	46	43	0	4	0	0	5	前	1,2,4	1,7	0	9	前	18	2	年	1,2,4	19	2	年	1,2,7